



7月4日未明、観測史上最大となる大量の雨を降らせた梅雨前線は人吉市や球磨村はじめ県南部に甚大な被害をもたらし、その後も次々発生する線状降水帯は九州を上下し、山鹿市など県北部にも大きな爪痕を残しました。とりわけ県南地域では死者65名、行方不明者2名、住宅被害8800戸超の未曾有の激甚災害となりました。尊い命を亡くされた方々、被災された皆様に謹んでお悔やみ、お見舞いを申し上げます。

あれから3ヶ月が経過し地震時同様、県政の最重要課題は復旧・復興であることは論を待たないところです。そこで私が所属する県議会・総務常任委員会は10月14日、被災地の復旧状況の視察を行いました。その一部を簡潔に報告します。

① 芦北町の炭素材の大手製造メーカーの『東海カーボン』は町から流れる水が敷地内ではけきらずに工場群が冠水、排水ポンプが故障し火災が発生しました。企業存続、そして周辺から通勤する125人の雇用維持のためにも排水対策への迅速な対応が求められます。



② 球磨川沿いを移動中、車窓から目に入る光景に言葉がありません。球磨川にかかる橋梁の崩壊、球磨川に注ぐ支流沿いの集落も壊滅的な状況です。ある集落は濁流にのまれて跡形がなくなり、ある集落は家屋の中まで土砂に埋もれたり、類のない災害だったことを物語っています。





③ 球磨川鉄道も甚大な被害がありました。球磨川と川辺川の合流地点に位置する川村駅はホーム周辺の線路が瓦解、球磨川にかかる橋梁も流失しました。現在通学する高校生のために代替バスで対応していますが、年間約70万人の利用者の足を確保するために2024年の湯前線100周年の再興を目指しています。

## がんばろう!!



④ 八代市で最も被害の大きかった坂本地区。球磨川の想像を絶する高さの越水が駅、市支所、金融機関、病院：町の全てを飲み込みました。

川辺川ダム建設に関しては平成20年、当時の流域首長の建設反対表明を受けて白紙撤回した経緯があります。当時の民意、世論に従って政策を決定したものの結果として地域住民の生命、身体、財産を守ることはできませんでした。今、被災市町村では安心・安全が確保できる治水対策が決らなければ、これからのまちづくり、生活再建を描くことすらできない状況下にあります。

そうした住民の意向を受けて球磨川流域12市町村は足並みを揃えて川辺川ダムを含む抜本的な治水対策を講じるよう決議し、これまで県に対して2度要望書を提出されています。

10月15日から被災地の住民や各種団体から意見を聞く会が随時開催されています。様々な意見に耳を傾けつつも住民の生活再建を考えると時間的な制約もあり、県は年内を目途に復旧・復興プランを作成予定です。

今後、川辺川ダム建設を含め市房ダムの強化や遊水池の確保、堤防強化、かさ上げ、今回の豪雨で堆積した土砂撤去など、流域住民の生命、身体、財産を守るべく、できることは全てやる、それが県と県議会に課せられた使命であることを強く感じた視察でした。

